

# 第 82 回日本臨床外科学会総会

## <シンポジウム> (公募・一部指定)

### 1. ロボット支援下直腸癌手術を活かす工夫と展望

2018 年度より直腸癌に対するロボット手術が保険収載となって施行症例が増加している。一方で施設内での他領域のロボット手術との兼ね合いから施行数には制限がある。今回は、直腸癌の中でもとくにロボット手術のメリットが大きい症例選択や手技の工夫を示していただき、将来展望についても論じたい。

### 2. 炎症性腸疾患に対する低侵襲手術の進歩

IBD に対する手術は、小開腹手術や腹腔鏡手術の適応拡大など様相が変化している。しかしながら、創に関する利点以外に、従来の開腹手術に対して明らかな手術成績の差は示されておらず IBD に対する手術法についてはいまだ議論が続いているところである。本セッションでは、IBD に対する各施設の術式をアプローチの変遷とその成績をもとに今後の展望も含めて幅広く討論していただきたい。

### 3. 進行下部直腸癌に対する治療戦略

直腸癌根治手術としての Miles 手術の発表から 110 年以上の年月が経過した。この間、根治性と機能温存という相反する命題を克服するため様々な工夫がなされてきた。本邦の側方リンパ節郭清の適応も施設で違いがみられ、欧米では NACRT から watch and wait といった概念も登場してきた。本セッションでは進行下部直腸癌に対する各施設での治療戦略をその成績とともに討論していただきたい。

### 4. 転移陽性例に対する側方郭清のコツとピットフォール

これまで側方郭清については、いわゆる予防的郭清も含めた適応、術式と治療成績が論じられることが多かった。今回は、側方リンパ節転移を強く疑う症例に対する治療戦略を腹腔鏡やロボットも含めた手技のコツとピットフォールをメインに治療成績も併せて討論していただきたい。

### 5. 大腸癌肝転移に対する治療戦略

JCOG 0603 試験では、肝転移術後の補助化学療法の有用性は証明されなかったが、conversion 治療を含め、化学療法を“どの様な肝転移に”また“どの時点”で組み入れるのがベストかを各施設の取り組みをもとに、討論していただきたい。

## 第 82 回日本臨床外科学会総会

### 6. 膵癌に対する術前治療の現状

膵癌の予後改善には集学的治療が不可欠であり、切除可能から切除不能膵癌に至るまで術前治療が広く行われている。術前治療により選択肢が広がる一方で、そのメリットとデメリットに関して不明な点もあり議論すべき点が多い。本セッションでは、切除可能膵癌だけではなく切除境界・不能膵癌も含め、各施設で取り組んでいる術前治療の適応や最適なレジメン方法、手術のタイミング、副作用の防止法、などについて提示していただきたい。

### 7. 高齢者肺癌患者に対する外科治療

高齢化社会が進むにつれ超高齢者に対する外科治療の機会も増加している。胸腔鏡下手術の普及に伴い原発性肺癌手術も低侵襲になったとはいえ、高齢者にとっては、高侵襲な手術である。高齢化社会の到来により、高齢原発性肺癌患者の増加が予想される中、根治を目指した治療方針の決定基準や問題点についてご討議いただきたい。

### 8. 小児固形腫瘍における QOL を重視した局所治療の工夫

近年、集学的治療の進歩により小児固形腫瘍の生命予後は向上してきたが、一方で治療関連合併症がクローズアップされてきており、サバイバーの長期 QOL が問題となってきている。各施設で行われている各種固形腫瘍患者の将来の QOL を重視した治療上の工夫や取り組み、そして治療成績を示しつつ、長期的な展望を交えて討論していただきたい。

### 9. 重症大動脈弁狭窄症と悪性腫瘍の併存：集学的治療戦略

高齢化による重症大動脈弁狭窄症患者の増加に伴い、悪性腫瘍合併症例も漸増している。病態にもよるが、大動脈弁狭窄症に対する治療を優先すべきか、悪性腫瘍手術を先行させるべきか判断に迷う症例も存在する。また昨今、経カテーテル大動脈弁治療も導入されており、集学的な治療方策の検討が求められる。各施設における方針や治療成績を共有し、今後の課題や展開について討論していただきたい。

### 10. 内臓動脈瘤の治療戦略：直達手術と血管内治療の適応と限界

内臓動脈瘤に対する治療に際し、血管内治療が第一選択とされるが、局在や臓器温存の観点から開腹手術が必要となる症例も存在する。また近年、ステントグラフトを用いた内臓動脈瘤治療の報告も散見される。各施設の方針や治療成績、また工夫などについて提示いただき、内臓動脈瘤に対する直達手術及び、血管内治療の適応と限界について討論していただきたい。

## 第 82 回日本臨床外科学会総会

### 11. 外科分野における男女共同参画の現状とポジティブ・アクション

外科における女性の割合は徐々に増加しているが、指導的地位に占める女性の割合は低い。女性の活躍を推進するためには、各学会のリーダーがビジョンを示し、ポジティブ・アクションを推進することが重要である。各学会における男女共同参画の現状とこれまでの成果および将来展望について紹介していただきたい。

### 12. 臨床外科領域におけるトランスレーショナル研究のあり方

がん遺伝子パネル検査の臨床導入などが始まり、基礎医学と臨床現場がボーダレスな時代に突入している。また研究機器やデータサイエンスの進化により、研究成果を診断・治療につなげる橋渡し研究の実行力が社会から求められている。このような状況下で、臨床外科医が担うべき役割や臨床外科領域における研究のあり方について現状の取り組み・成果・課題・要望などについて、広く討論していただきたい。

### 13. オンコプラスチックサージャリーにおける適切な術式選択と工夫

乳癌治療成績向上に伴い、「整容性」はますます重要なアウトカムの一つとなった。オンコプラスチックサージャリーはまさに「根治性と整容性の両立」という問題に挑む重要なツールである。しかしながらこれらの術式が本邦において十分に広まっていないのが現状である。エキスパートの外科医から熱い提言をしていただきたい。

### 14. 高度進行胃癌に対する内視鏡外科手術

大規模第 3 相試験 (JCOG0912、KLASS01、CLASS-01) の結果が 2019 年に相次いで明らかとなり、cStage III までの胃癌に対する腹腔鏡下幽門側胃切除術の開腹手術に対する非劣性が証明された。しかし、化学療法後の症例や高度進行胃癌に対する内視鏡外科手術の意義は不明である。高度進行胃癌に対する腹腔鏡・ロボット支援下胃切除術の手術手技と治療成績をお示しいただき、将来展望を交えて討論していただきたい。

### 15. 胃外科の未来を語る

ピロリ菌感染に代表される疫学的背景の変化、内視鏡外科手術や内視鏡的粘膜下層切除術の台頭、そして分子標的薬や免疫療法などの薬物療法の進歩など、胃癌に係る治療の進歩は著しく、precision medicine に向けた流れは加速するものと予想される。多様化する胃癌治療のなかで、未来の胃外科とはどのような

## 第 82 回日本臨床外科学会総会

なものなのか、自由闊達な討論をしていただきたい。

### 16. 食道外科の未来を語る

内視鏡的粘膜下層剥離術、ロボット支援下食道切除術、そして免疫療法など、食道癌に係る治療の進歩は著しく、すでに開胸食道切除を経験・得意とする外科医の減少が現実のものとなっている。食道腺癌の増加に例えられる疫学的背景の変化や多様化する食道癌治療のなかで、未来の食道外科とはどのようなものなのか、自由闊達な討論を期待している。